

危機管理課

○ 防災関係

1 災害対策本部関係

伊勢市地域防災計画に基づき、災害の防止・軽減・応急対策を迅速に実施するため、災害対策本部を設置した。

(1) 本部設置回数 9回

設置年月日	警報・注意報名	備考
30. 6. 20	大雨警報、雷・強風・波浪注意報	
30. 7. 28～30. 7. 29	大雨・洪水・波浪・暴風警報、洪水・雷・高潮注意報	台風第12号
30. 7. 30	大雨警報	
30. 8. 16	大雨警報、雷注意報	
30. 8. 23～30. 8. 24	大雨・波浪警報、雷・強風・洪水注意報	台風第20号
30. 9. 4	大雨・暴風・波浪警報、雷・洪水・高潮注意報	台風第21号
30. 9. 10	大雨警報、雷・洪水注意報	
30. 9. 29～30. 10. 1	大雨・暴風・洪水・波浪・高潮警報、雷注意報	台風第24号
30. 11. 6	大雨警報、雷注意報	

2 平成30年7月豪雨の被災自治体へ職員派遣

平成30年7月に発生した西日本豪雨の被災地支援のため、三重県がカウンターパートとして広島県熊野町に入ることとなり、災害支援のため伊勢市も協力し、職員の派遣を行った。

(1) 派遣先：広島県安芸郡熊野町

(2) 派遣期間、派遣職員及び人数、支援内容

派遣期間	派遣職員及び人数	支援内容
30. 7. 10～30. 7. 17	危機管理課 2名	災害対策本部運営支援
30. 7. 30～30. 8. 5	危機管理課 1名 生活支援課 1名	災害対策本部運営支援
30. 8. 19～30. 8. 23	介護保険課 1名	避難所運営
30. 10. 1～30. 12. 28	用地課 1名 上水道課 1名	災害復旧支援

3 災害対策本部の体制強化

(1) B C M（伊勢市業務継続マネジメント）定例会の開催

各部、各チームが主体性を持ってB C Mに取り組むためにB C M定例会を開催し、課題の進捗状況について報告等を行った。

ア 実施年月日 ①平成30年10月31日（水）

②平成31年3月28日（木）

イ 参加者 市長、副市長、部長級、総合支所長等

ウ 講師 ①水木 千春 氏（三重大学助教）

②川口 淳 氏（三重大学准教授）

エ 内 容 各部、各チームでのBCMへの取組み状況の報告及び伊勢市全体で共有すべき課題事項の共有

（2）図上訓練の実施

プロジェクト型災害対策本部体制の習熟度を上げ、災害対策本部となる防災センターでの災害対策業務を経験することを目的に職員を対象とした図上訓練を実施した。

ア 風水害編

- ・実施年月日 平成30年11月16日（金）、19日（月）
- ・参加者 389名
- ・訓練内容 風水害による宮川の破堤後の事案を想定し、災害対策本部における情報共有のルール確認や災害対応の目標の企画・立案方法を理解するための訓練を行った。また、訓練終了後、講評を受けた。
- ・講評者 辻岡 綾 氏（人と防災未来センターリサーチフェロー）
川口 淳 氏（三重大学准教授）

イ 地震編

- ・実施年月日 平成31年1月25日（金）
- ・参加者 136名
- ・訓練内容 熊本地震の被災体験講話、平成30年度に全国で発生した災害対応における教訓の講話があり、その後の図上訓練では、直下型地震で伊勢市に大きな被害が発生した状況を想定し、対応を検討し、模擬記者会見を実施した。
また、災害協定市の愛媛県西条市、長野県飯田市から職員に来ていただき訓練に参加いただいた。（石川県加賀市は、電話にて訓練に参加）
- ・講演者及び評価者 河地 克敏 氏（熊本県上益城郡御船町職員）
菅野 拓 氏（人と防災未来センター主任研究員）

（3）避難所環境の整備

自主避難所、伊勢宮川中学校及び桜浜中学校で避難先にテレビが設置されていない8か所の避難所に災害時の情報取得用にテレビを設置した。

設置先：進修小学校図書室、神社小学校図書室、佐八小学校図書室、城田小学校体育館、上野小学校体育館、しごうこども園交流室、伊勢宮川中学校清流ホール、桜浜中学校多目的ホール

4 自主防災隊資機材購入事業

平成29年度に結成し、平成30年度から活動を開始した新規結成自主防災隊に防災資機材等を購入し、交付した。

（1）交付団体 横輪町自主防災隊

（2）事業費 984,774円

5 自主防災隊補助事業

伊勢市自主防災補助金等交付要綱に基づき、防災資機材や備蓄食料等の整備及び訓練に対し、次のとおり補助金及び助成金を交付した。

- | | | |
|---------------|------|----------------|
| (1) 自主防災組織結成数 | 133隊 | (平成31年3月31日現在) |
| (2) 訓練助成金 | 95件 | 2,850,000円 |
| (3) 防災補助金 | 129件 | 13,929,000円 |
| ア 自治会 | 53件 | 2,807,000円 |
| イ 自主防災組織 | 76件 | 11,122,000円 |

6 地域防災力向上支援事業

(1) 防災講習・防災訓練の実施

南海トラフ地震等の大規模地震の発生が危惧されている中、地域における防災の取組みを促進するため、自治会、自主防災組織、まちづくり協議会及び小中学校等からの要請に応じ、防災講習や防災訓練指導を実施した。

- | | | |
|--------|--|---------------|
| ア 実施回数 | 171回 | (平成29年度 143回) |
| イ 参加人数 | 10,531名 | |
| ウ 実施内容 | ・緊急時の行動や家庭内での防災対策の説明
・児童、生徒等への防災教育
・三重県防災啓発車による地震体験支援
・災害時の避難行動訓練指導 | |

(2) 地域防災マップ作成事業

住民が災害に強いまちづくりを行うことを目的として、防災について話し合い、顔の見える関係を作り、地域課題の共有や改善を行うため、地域住民の力で行うタウンウォッチングの説明会を2回実施した。タウンウォッチングの結果、地域で避難経路や地域資源等の情報共有を行うとともに、それらの情報を記載した防災マップを作成した。

- | | | | | |
|--------|--|----------------|----------|--------|
| ア 説明会 | 1回目 | 平成30年7月8日(日) | 小俣老人福祉会館 | 8自治会参加 |
| | 2回目 | 平成30年10月27日(土) | 御薊公民館 | 4自治会参加 |
| イ 作成実績 | 松倉自治会、朝熊町委員会、竹ヶ鼻町自治会、柏町会、柏団地自治会、東大淀町会、自衛隊官舎自治会、三軒屋自治会、二俣1丁目町会、西口町会、下長屋区、桜が丘自治会、常磐表町町内会、東豊浜町西条自治会、土路区町会、檜原町会自治会 計 16自治会 | | | |

(3) 高齢者等宅家具固定事業

過去に発生した大規模な地震では、住宅内の家具の転倒により多くの死傷者が発生した。特に高齢者、障がい者の方が被災されるケースが多数見受けられたため、高齢者等を対象に家具固定事業を実施した。

- | | |
|--------|----------------------|
| ア 申込件数 | 29件 |
| イ 申込期間 | 平成30年8月1日～平成31年1月31日 |

(4) 自主防災隊リーダー研修会の開催

地域の自主防災組織活動の中心的役割を担うリーダーの育成を図るため、伊勢市防災大学の講習と合わせて研修会を防災センターで実施した。

ア 実施年月日 平成30年7月22日(日)

イ 研修内容 講演 語り部講話「被災体験と避難所運営」

講師 一般社団法人キャンパス東北 コーディネーター長 山田葉子 氏

(5) 伊勢市防災コーディネーター事業

市民の防災活動の普及・防災意識の高揚を図るため、防災士資格を持つ市民の中から防災コーディネーターを認定し、地域の防災啓発活動のサポート等を行った。

伊勢市防災コーディネーター 38名(平成31年4月1日現在)

(6) 子ども防災デイキャンプの実施

夏休みを利用し、小学校4年生から6年生及びその保護者を対象に防災センターにおいて非常食の試食や応急手当の体験、避難所疑似体験などを通じ、災害に対する備えについて学び、防災に対する意識の向上を行った。

ア 実施年月日 平成30年8月5日(日)

イ 参加者 74名(小学生 41名、保護者 19名、防災コーディネーター 14名)

ウ 研修内容 避難所テント、段ボールベッド設営、ロープワーク、煙避難体験、目隠し障害物迷路、アルファ化米調理及び試食と紙容器作成、クロスロードゲーム、応急手当体験など

7 避難対策事業

(1) 洪水浸水想定区域図公表に伴う地域への周知

国土交通省は水防法の改正に伴い、新たな宮川及び勢田川の「洪水浸水想定区域図」を公表した。この洪水浸水想定区域図では「家屋倒壊等氾濫想定区域」が新たに設定されるなど、河川の周辺地域の洪水浸水によるリスクが大きくなった。

このことから地域の方に最適な避難を考えてもらい、リスクコミュニケーションを行うためのワークショップを実施している。

ア ワークショップ

実施回数 9回

実施地区等 豊浜西小学校、河崎、一之木、中島町、城田地区連絡協議会、高畑自治区、松倉自治区、森区、四郷地区まちづくり協議会

イ 内容 洪水浸水想定区域図の説明、「洪水避難検討シート」を使ったワークショップ

8 防災センター運営事業

平成28年4月1日にオープンした伊勢市防災センターは、市民の防災に関する知識の普及及び技術の向上並びに防災意識の高揚を図るとともに、災害時における災害対策本部として運用しており、防災の拠点として施設の管理、運営を行った。

(1) 管理運営方法

市が直接管理し、使用料は無料で運営している。(12月28日から翌年1月4日までは休館)

(2) 利用状況

年度	体験学習室	研修室1	研修室2	研修室3	多目的ホール	小計	イベント	合計
H28	8,055人	3,226人	214人	236人	4,023人	15,754人	2,300人	18,054人
H29	6,444	4,796	261	605	3,673	15,779	1,550	17,329
H30	6,187	4,238	240	597	4,825	16,087	1,700	17,787

(3) 実施イベント

ア 消防・防災フェスタ

消防本部と共催で「消防・防災フェスタ」を防災センターで開催した。

- ・開催日 平成30年5月27日(日)
- ・来場者数 1,050人
- ・イベント内容 サイエンスインストラクター阿部清人さんによる「防災エンシショー」、はしご車体験搭乗、放水体験、地震体験車、防火服着装体験、煙避難体験、初期消火体験、防災シアター、浸水車両脱出体験、ちびっこレスキュー体験、備蓄食料試食、伊勢市アマチュア無線災害ネットワークによる模擬無線通信 など

イ 救急と災害を考える集い

伊勢地区医師会・伊勢保健所等と共催で「救急と災害を考える集い」を開催した。

- ・開催日 平成30年9月9日(日)
- ・来場者数 650人
- ・イベント内容 特別講演、応急手当体験、煙避難体験、初期消火体験、防災シアター、災害時の口腔ケア、血圧測定・健康相談、手洗いチェッカー、はしご車体験搭乗、地震体験車、防災物品展示、防災救出体験 など

(4) 伊勢市防災大学

防災について、総合的に学ぶ機会を提供し、防災知識の豊富な人材を育成し、地域の防災力向上及び災害に強いまちづくりを支援するため、伊勢市防災大学を開校した。

回	日時	内容	講師	参加者数
第1回	6月24日(日)	・開校式 ・防災講演	三重大学 川口 淳 准教授	39人
第2回	7月22日(日)	・語り部講話 「被災体験と避難所運営」	一般社団法人 キャンナス東北 山田 葉子 氏	119人
第3回	8月26日(日)	・視察研修(大阪市)	津波・高潮ステーション 大阪市立阿倍野防災センター	30人
第4回	10月21日(日)	・防災食クッキング	だんだんキッチン 大須賀 由美子 氏	33人

第5回	12月16日(日)	・HUG講習	伊勢市防災コーディネーター	35人
第6回	1月20日(日)	・防災講話 「災害時のこころのケア」	三重県こころの健康センター 所長 楠本 みちる 氏	43人
第7回	2月17日(日)	・防災講話 「気象からみる防災」	京都大学 特定准教授 竹之内 健介 氏	39人
第8回	3月10日(日)	・修了式 ・学んだこと発表会	—	31人

(注1) 第2回講義は、伊勢市防災コーディネーター11名及び市内自主防災隊員72名を含む。

(注2) 第6回・第7回講義は、伊勢市コーディネーター10名を含む。

9 備蓄物資整備事業

伊勢市地域防災計画に定める備蓄計画に基づき非常用食料等を購入・更新し、物資及び資機材の整備を行った。

(1) 購入関係

種 類	品 目	H30購入	備蓄総量	備蓄目標
食料	ビスケット	7,840食	55,246食	71,065食
	粉ミルク	320食	320食	720缶
飲料水	ペットボトル(500ml)	3,912本	190,287本	555,345本
避難生活施設 運営資機材	ブルーシート	500枚	4,309枚	5,000枚
	カセットガス式発電機	20台	141台	135台

※ビスケット及び飲料水には職員用備蓄も含む。

(2) 委託関係

施行場所	委 託 名	委 託 概 要	金 額	着 手	完 了
伊勢市防災 センター ほか	災害用毛布クリーニング 及び真空圧縮業務委託	クリーニング 及び真空圧縮 430枚	円 378,950	30.11.29	31.2.28

10 防災行政無線整備事業

災害時における住民への適切な情報伝達体制の確立を図るため、屋外拡声子局が整備されていない地域において、新たに1地区に屋外拡声子局を整備した。

また、既存の屋外拡声子局のバッテリー交換を行った。

(1) 委託関係

施行場所	委 託 名	委 託 概 要	金 額	着 手	完 了
伊勢市地内	防災行政無線屋外拡声 子局バッテリー交換等 業務委託	バッテリー交換 188か所 機器調整 一式	円 39,100,644	30.7.31	31.3.15

(2) 工事関係

施行場所	工 事 名	工 事 概 要	金 額	着 工	完 工
上野町 地内	(注) 伊勢市防災行政無線(デ ジタル同報系)屋外拡声 子局増設工事	拡声子局増設 一式	円 4,968,000	30.8.31	30.12.28

(注) 建築住宅課施行

11 伊勢市防災会議の開催

災害対策基本法の規定に基づき、伊勢市地域防災計画の修正等を行うため、伊勢市防災会議を開催した。

- (1) 開催年月日 平成 31 年 3 月 28 日 (木)
- (2) 出席者数 23 名
- (3) 内容 議事 地域防災計画の修正について
報告 伊勢市の主な事業概要について
防災会議構成機関の災害時の対応
 - ・三重県伊勢建設事務所の取組み
 - ・市立伊勢総合病院の取組み

12 災害協定の締結

民間事業所等と災害時の応援協定を次のとおり締結した。

締結先	締結年月日	協定の名称
八木段ボール株式会社	30. 4. 20	災害発生時における段ボール製品の調達に関する協定書
伊勢生コンクリート協同組合	30. 6. 20	火災時における消防用水の確保に関する協定書
伊勢志摩総合地方卸売市場株式会社 伊勢山田青果株式会社 株式会社伊勢魚類市場	31. 1. 18	大規模災害時における卸売市場の一時使用に関する協定書

(注) 平成30年度末の協定締結数 104件

13 災害用民間井戸登録の普及

災害時における生活用水の確保と市民の防災意識の向上を図るため、災害用井戸の登録を募集し、水質検査を実施した。また、登録井戸一覧をホームページに公表するとともに自治会役員等に周知した。

- (1) 件数 234件 (平成30年度 10件減少)
- (2) 募集期間 平成30年 5 月 1 日～平成30年11月30日

○ 危機管理関係

1 全国瞬時警報システム (J-ALERT) 新型受信機の更新

気象庁において緊急地震速報の新たな予測方法 (PLUM 法) の導入により、伊勢市防災センターの防災無線室に設置している現行の全国瞬時警報システム (J-ALERT) の受信機の改修が必要となったため、国が推奨する新型受信機に更新し、J-ALERT 連動操作による防災行政無線システムの機器調整を実施した。

○ 防犯関係

1 伊勢市防犯推進協議会

「伊勢市防犯活動の推進に関する条例」の目的を達成するために、事業計画を策定し、市民の防犯意識の高揚と自主防犯活動の推進を図り、より安全で安心できる市民生活の確保に努めた。

(1) 地域安全講習会

年々増加する特殊詐欺事案等を未然に防止するため、伊勢警察署、伊勢度会地区生活安全協会職員とともに、自治会、老人会等へ出向し講習会を開催した。

開催回数：43回 受講者数：1,628名

内 容 ・防犯DVDや特殊詐欺事案の寸劇による啓発（振り込め詐欺など）
・伊勢警察署員及び伊勢度会地区生活安全協会職員による管内の犯罪等の発生状況、事例に沿った犯罪の手口とその対策方法について
・防犯アドバイザーによる地域の防犯対策について

(2) 防犯パトロール

児童・生徒に対して登下校時に発生している不審者による声かけ事案等からの被害防止を図るため、青色回転装備車で防犯パトロールを実施した。

実施回数：100回

(3) 防犯情報による啓発

伊勢警察署や市内の学校から寄せられた不審者情報や振り込め詐欺情報、犯罪発生情報の「防犯情報」を、防犯メール登録者に配信し、注意喚起と啓発に努めた。

配信回数：37回

(4) 防犯情報の提供及び対応

警察等からの不審者情報や振り込め詐欺情報を自主防犯団体や関係機関へ情報提供し、パトロール活動や注意喚起を要請した。

(5) 地域安全展の開催

伊勢度会地区生活安全協会と共催で、伊勢まつり会場内に「地域安全展」のコーナーを設け、幼児から高齢者を対象に防犯意識の高揚に努めた。

開催年月日：平成30年10月7日（日）

内 容 ・防犯啓発チラシ及び啓発物品の配布、似顔絵コーナー、防犯機器等の展示

(6) 防犯モデル地区

地域住民が防犯に対する理解と認識を深め、連帯意識を高めて、自主的な地域安全活動を推進できるようモデル地区を指定し、自主的な防犯活動の支援を行った。

指定期間：平成29年度から平成30年度 指定地区：御薊町新開区

指定期間：平成30年度から令和元年度 指定地区：ニュービレッジ大仏山自治会

2 伊勢市自主防犯団体連絡会

自主防犯団体相互の連携と資質の向上に積極的に取り組み、伊勢市内の防犯活動の活性化と市民の防犯意識の高揚により、安全で安心して暮らせるまちづくりに努めた。

(1) 街頭啓発活動

街頭犯罪や振り込め詐欺等の特殊詐欺被害防止のため、伊勢警察署及び伊勢度会地区生活安全協会、伊勢市自主防犯団体連絡会と合同で、街頭啓発を実施した。

実施回数：25回

実施場所：市内ショッピングセンター、J R伊勢市駅前、近鉄宇治山田駅前等

(2) 全国地域安全運動

全国地域安全運動の期間中（10月11日～20日）に伊勢警察署及び伊勢度会地区生活安全協会、伊勢市自主防犯団体連絡会と合同で、自転車ツーロック啓発活動を実施した。

開催日：平成30年10月15日（月）・17日（水）・19日（金）

(3) 安全安心フォーラムin伊勢講演会

地域住民が防犯意識を高め、地域ぐるみで防犯活動に取り組むことで、より安全で安心なまちをめざすための講演会を開催した。

開催年月日：平成30年4月18日（水）

開催場所：伊勢市ハートプラザみその

参加人数：約120名

内 容

第1部 演 題 「狙われてます！あなたのお家は大丈夫？」

講 師 藤村 喜成 氏（三重県防犯設備協会副理事長）

宮嶋 浩一 氏（三重県防犯設備協会理事）

第2部 公 演 実際にあった特殊詐欺の寸劇「誰からきたの？そのハガキ！」

出 演 伊勢市自主防犯団体連絡会、伊勢度会地区生活安全協会、
伊勢警察署、伊勢市

3 防犯灯LED化推進事業

夜間に路上で発生する犯罪等を防止するため、防犯灯の設置を推進するとともに、自治会が所有する蛍光灯の防犯灯を電気料金等が削減でき、長寿命であるLED防犯灯へ取替えを推進した。

(1) 防犯灯に係る補助金及び助成金交付

自治会が所有する防犯灯の整備等に対し、補助金及び助成金を交付し地域の防犯環境の整備を支援した。

- ・防犯灯新設 92灯（旧伊勢60灯、旧二見5灯、旧小俣14灯、旧御薊13灯）
- ・防犯灯修繕 245灯（旧伊勢188灯、旧二見11灯、旧小俣18灯、旧御薊28灯）
- ・LED取替 1,826灯（旧伊勢1,286灯、旧二見123灯、旧小俣280灯、旧御薊137灯）
- ・防犯灯電気代 13,615灯（旧伊勢9,918灯、旧二見888灯、旧小俣1,956灯、旧御薊853灯）

防 災 施 設 整 備 課

○ 避難所等整備事業

1 津波避難施設整備

津波からの避難困難地に対する緊急避難所として、津波避難施設等の整備を行った。

(1) 委託関係

施行場所	委託名	委託概要	金額	着手	完了
二見町今地	(注1)(注2) 二見町今一色津波 避難施設新築工事 監理業務委託	監理業務 一式	円 2,027,160 【契約額】 2,027,160 [平成29年度] 0 [平成30年度] 2,027,160	29. 7. 14	30. 7. 12

(注1) 建築住宅課施行

(注2) 平成29年度から繰越

(2) 工事関係

施行場所	工事名	工事概要	金額	着工	完工
二見町今地	(注1)(注3) 二見町今一色津波 避難施設新築工事 (建築工事)	鉄筋コンクリート造 3階建 1棟 延べ面積 1,054.56㎡ 建築工事 一式	円 254,604,000 【契約額】 357,696,000 [平成29年度] 103,092,000 [平成30年度] 254,604,000	29. 7. 12	30. 6. 29
〃	(注1)(注3) 二見町今一色津波 避難施設新築工事 (電気設備工事)	電気設備工事 一式	11,478,800 【契約額】 18,478,800 [平成29年度] 7,000,000 [平成30年度] 11,478,800	29. 7. 14	30. 6. 29
〃	(注2) 二見町今一色津波 避難施設安全施設 設置工事	防滑テープ設置 一式 園庭スロープ設置 一式	1,271,160	30. 7. 5	30. 7. 24
植山町地内ほか	避難所看板設置工事	避難所看板設置 3か所	1,080,000	30.12.11	31. 2. 28

大湊町 地内	大湊町津波避難施設避難路整備工事	避難路整備 46m	円 5,265,000	30.12.21	31.3.26
大湊町 地内ほか	明神ポンプ場ほか 電気設備撤去・設置 工事	ソーラー照明灯 一式	455,760	31.2.8	31.3.25
計	6件	—	274,154,720		

(注1) 建築住宅課施行

(注2) 平成29年度から繰越

(注3) 平成29年度から一部繰越

※合計は各行の最上段を合算

2 避難生活施設等の環境整備

災害時に利用する避難生活施設等の環境整備に関連する計画及び調査業務を実施した。

施行場所	委託名	委託概要	金額	着手	完了
伊勢市 地内	備蓄倉庫調査業務委託	備蓄倉庫調査業務 66か所	円 3,834,000	30.6.27	30.10.24
神田久志本町 地内ほか	避難所施設測量業務委託	現地調査 11か所 基準点測量 11か所	1,224,720	30.10.19	31.3.26
〃	避難所施設詳細設計 業務委託	避難所施設詳細設計 11か所	11,848,680	30.11.13	31.3.26
計	3件	—	16,907,400		

3 地震自動解錠付防災ボックスの設置

津波の浸水が予測される地域の避難所へいつでも避難が可能となるように、震度4以上の地震を感知したときに解錠する防災ボックス（鍵ボックス）を設置した。

設置場所	金額
桜浜中学校	円 287,280